

# 社会科学習指導案

指導者 大西 弘員

- 1 日時 令和5年11月18日(土) 第1校時(9:00~9:50)
- 2 年組 中学校 第2学年1組 計40名(男子16名, 女子24名)
- 3 場所 中学校2年1組教室
- 4 題材 ふるさと納税の功と罪 ~よりより制度にするためには?~
- 5 題材について

本題材は、中学校学習指導要領(平成29年告示)社会科 地理的分野 C 日本の様々な地域(3) 日本の諸地域 ウ (ウ)に重点を置いて指導を行う。ここでは、「地域の考察に当たっては、そこに暮らす人々の生活・文化、地域の伝統や歴史的背景、地域の持続可能な社会づくりを踏まえた視点に留意すること。」となっているが、これまでの私自身の授業実践においても、地理的分野・歴史的分野・公民的分野に共通して「持続可能な社会の実現に向けて」というページが教科書の冒頭にあることに注目し、これらを授業作りの軸にしてきた。こうしたなか、今回の授業で「ふるさと納税」を教材として扱うに至った理由としては、以下の2つが大きな要因となっている。

まず1つめに、中・四国地方を扱った際に、「中国山地と四国山地によって、山陰・瀬戸内・南四国の3つの地域に分けられることができ、人やモノの移動について、東西は比較的スムーズに行うことができるが、南北については大変である。」という生徒の発言から、「山陰や南四国にある県の国民体育大会の総合順位が、どのようになっているのか?人やモノの移動に制限があることで、地方税などの収入はどのような現状で、強化費などに影響を及ぼすのか?」という疑問を持ったからである。実際に本年度と前年度の総合順位(天皇杯・皇后杯)を調べてみると、島根県・鳥取県・徳島県・高知県は、43位以下に名を連ねていることがわかった。逆に総合順位(天皇杯・皇后杯)の1位はいずれも東京都であった。人口が多いことで選手の層も厚くなるのは確かだが、これらの結果から人口や財政の面で規模が大きい都道府県の方が、好成績を収めやすいことがわかった。実際に、2位以下10位までは、関東・中部・近畿地方の大都市を有する都道府県がランクインしている。

2つめに、新型コロナウイルスの流行で、これら大都市を有する都道府県が不公平感を訴える事象が発生したことである。特に東京都は、もともと自主財源の割合が高いため、地方交付税交付金の不交付団体となっているが、日本の10分の1の人口を抱える東京都は、新型コロナウイルスの流行に関連する対策費が最もかかり、東京都の財政をひっ迫したことで、「ふるさと納税」の制度に対して「ふるさと納税で流出した都民税は特別養護老人ホーム約60施設分の補助額に相当」と批判的な態度を公式に取った。これら2つの事象から「ふるさと納税」の意義や制度そのものが教材にならないか?という気持ちを抱いたからである。折しも令和5年10月に、「ふるさと納税」の制度の法改正がおこなわれたことも大きく影響している。

本来、この単元を扱うとすれば、公民的分野の「地方自治」で取り扱うことが妥当であり、中学校学習指導要領(平成29年告示)社会科 C 日本の様々な地域(1)地域調査の手法 では、「地方財政などの公民的分野の学習内容に関する地域の課題とは区別して扱うことが必要である。」となっているが、日本の諸地域の学習が済んでいることや、本校は毎年、国税庁が主催している、中学生の「税についての作文」に学年を問わず参加していることから、この題材を取り扱うこととした。最終的には、人口減少率が日本で一番激しいとされる「広島県」に目が向くようにしたいと考えている。

本学級の生徒は、社会的事象への関心が高いだけでなく、ペアワークやグループワーク、ディベートなど協働的な学習を得意としている。そのため、「地域調査」の単元では、「G7広島サミット」を題材として、サミットの主会場や交通規制の区間、休校措置をとる学校の場所などを、白地図にわかりやすく記入したり、東北地方の「過去の伝承と未来に向けた社会づくり」の単元では、原爆の被害や平和の尊さを語り継ぐことを意識しながら、東日本大震災の教訓を伝えるレポートにしたり、北海道地方のまとめでは、「自然の制約」というテーマのレポートを作成したりするなかで、相手にわかりやすく伝えるという表現活動も積極的に行ってきた。これは、偶然にもメンタリティーや価値観が似ている生徒が集まったため、表現活動が円滑に行われやすいことに起因しているからと考える。この傾向は社会科の授業以外でも、学校行事など多くの場面で見受けられる。一方で意図的に偏ったものの見方や考え方をすることがあまりないため、この単元を通して異なる意見から自分の考えにスコープする力を身に付けさせたいと考える。

指導にあたっては、前時の段階で「ふるさと納税」に関する制度の基本的内容や「ふるさと納税の制度改正」などのインプットを予め行い、本時の本題である「ふるさと納税の功と罪 ～よりより制度にするためには？～」に迫りたいと考える。そこから「ふるさと納税の影響を最も受ける可能性があるのは広島県の可能性が高い」ということまで思考の幅を広げさせたい。

## 6 題材の目標

- (1) 「ふるさと納税」はどのようなきっかけで作られた制度であるか？またこの制度によってどのような影響が及んだか？「功」と「罪」について理解できる。
- (2) 自分の考えた「ふるさと納税」の制度について、他者にわかりやすく説明できるようにするとともに、他者の意見から自分の意見を洗練することができる。
- (3) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、それらを基に議論したりしようとする態度を養うと共に、身近な生活に置き換えて考えることができる。

## 7 指導計画（全2時間）

次	時	学習内容
1	1	「ふるさと納税」とは何か？ ～制度が始まった背景やその影響について～
2	2	「ふるさと納税」の功と罪 ～より良い制度にするためには？～（本時2／2）

## 8 本時の目標

「ふるさと納税」の制度が、制度が制定された本来の目的を意識しながら、より良い制度にするためには、どのようにすることが良いか提案することができる。【知識・技能】

## 9 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な児童・生徒の姿
III	「ふるさと納税」の概要を理解した上で、よりよい制度にするために、どのようにすればよいかについて、制度の長所と短所を理解し、あらゆる地方公共団体のことを考えたうえで内容を説明することができる。

II	「ふるさと納税」の概要を理解した上で、よりよい制度にするために、どのようにすればよいかについて、内容を説明することができている。
I	「ふるさと納税」の概要を理解することはできているが、よりよい制度にするために、どのようにすればよいかについて、内容を具体的に説明することはできていない。
手立て【関連する教師の資質能力】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ふるさと納税」の事を生徒は知らないという前提のもと概念の習得をしっかりと行う【授業構想力】</li> <li>○ 「ふるさと納税」の良い点と改善点をしっかりと押さえる【授業構想力】</li> <li>○ 「ふるさと納税」の制度をよりよいものにするには、どのようにしたらよいか考えさせると共に、広島県や広島市に住む私たちには、どのような影響があるか自分事として捉えさせる【授業実践力】【授業分析・評価力】</li> </ul>	

## 10 学習の展開

学習活動と内容	○指導上の留意点（◆評価）
<p>1. パワーポイントをもとに「このようなめあてになった理由」を考える。</p> <p>2. 「ふるさと納税」によって、これまで地方税などの収入が少なかった地方にある都道府県によい影響を与えたことや、地方税の収入が多かった都市部の地方公共団体に不公平感を与えたこと、更には、高額な返礼品によって、地方公共団体が苦しんで、本来の目的に反していることに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペアで前時の内容について振り返りをする。</li> <li>○ 「ふるさと納税」の制度は、都道府県間の格差是正になる場合とならない場合や、自主財源が少ない都道府県が困る場合があることに目を向けさせる。</li> <li>◆ 多面的・多角的に「ふるさと納税」について考察している。【知識・技能】</li> </ul>
「ふるさと納税」をより良い制度にするためには、どのようにすればよいか考えることができ	
<p>3. 生徒が考えた「ふるさと納税」のありかたについて、ワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふるさと納税」の制度はこのままでよい。</li> <li>・「ふるさと納税」の制度は改正すべきだ。</li> <li>・「ふるさと納税」の制度は廃止すべきだ。</li> </ul> <p>4. なぜ、3でそのように定めたのか、同じ意見のグループで席移動し全体交流する。</p> <p>5. 4の活動を踏まえて、改めて「ふるさと納税」について、自分の意見を見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ クラスの中でディベートしやすいように、同じ意見の生徒ごとに座席を移動させる。</li> <li>○ 多面的・多角的に思考・判断させる。</li> <li>◆ 都道府県によって「ふるさと納税」から受ける恩恵に大きな差があることや、本来の目的を意識し、より良い制度にするためにはどのようにしたら良いか、工夫して表現することができる。【知識・技能】</li> <li>◆ なるべく全ての都道府県が納得できるような「ふるさと納税」の制度を考えることができ</li> </ul>

6. まとめとして、広島県や広島市、または私たちにとってどのような制度であることが好ましいか、自分の考えた制度を振り返る。

る。【知識・技能】

○ 立場が変わることで、「ふるさと納税」の恩恵を受ける場合と受けない場合があることを理解させる。